



## 第1回

# 経常収支比率って何？の巻

「市」の財政と聞いてどんなイメージをお持ちですか？「堅苦しくて難しい」「財政難ってよく言うけどほんとはどうなの？」などと感じる人も多いのではないのでしょうか。このコーナーではそういった堅苦しいイメージを少しでもなくし、私たちが暮らしているまちをもっと身近に感じてもらえるよう、市の財政がどうなっているのかについて、テーマをしぼってお伝えします。第1回目は「経常収支比率」について説明します。

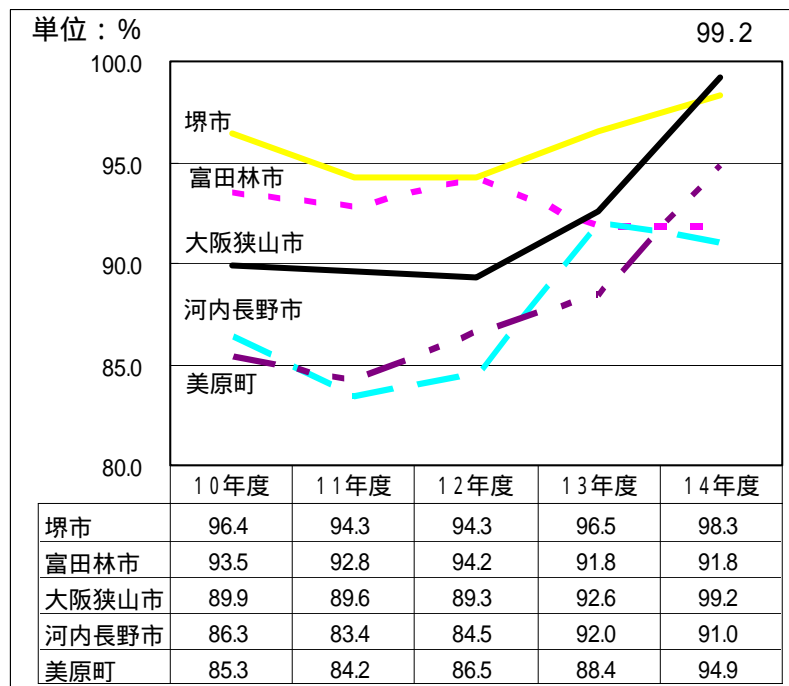
市税や国から交付される普通交付税など、毎年度決まって入ってくるような収入を経常的収入と言います。その収入の中から、人件費、扶助費（生活保護費など）、公債費（ローンの返済）といった支払う義務のある経費や、公共施設の維持管理経費など毎年固定的に支出しなければならない経費にどれだけ使われたかを示したものが経常収支比率です。

一般家庭でいえば、毎月の給料に占める食費や光熱費などの生活費やローン返済額の割合ということになります。この割合の数値が低ければ将来のために貯金をしたり、家の増改築などいろいろなことにお金が使えということになり、逆に数値が高ければ生活費とローンの返済だけで精一杯の状態ということになります。

右上の表とグラフは近隣市町の平成10年度～平成14年度の経常収支比率の推移です。大阪狭山市の場合、平成14年度決算で99.2%と近隣市町との比較を見ても高い比率を示しています。これは年々市税収入や普通交付税などの経常的な収入が減少する一方で、人件費や公債費など義務的・固定的な経費が依然として大きな負担となっているため、人件費の削減など節約に努めていますが、依然厳しい状況が続きます。

市としては、事務事業の見直し・効率化を図ることでさらなる必要経費の節約をするなど、経常収支比率の改善に努め、より自由度のある財政構造を目指していきます。

（「広報おおさかさやま」平成16年7月号抜粋）



【資料】地方財政状況調査